

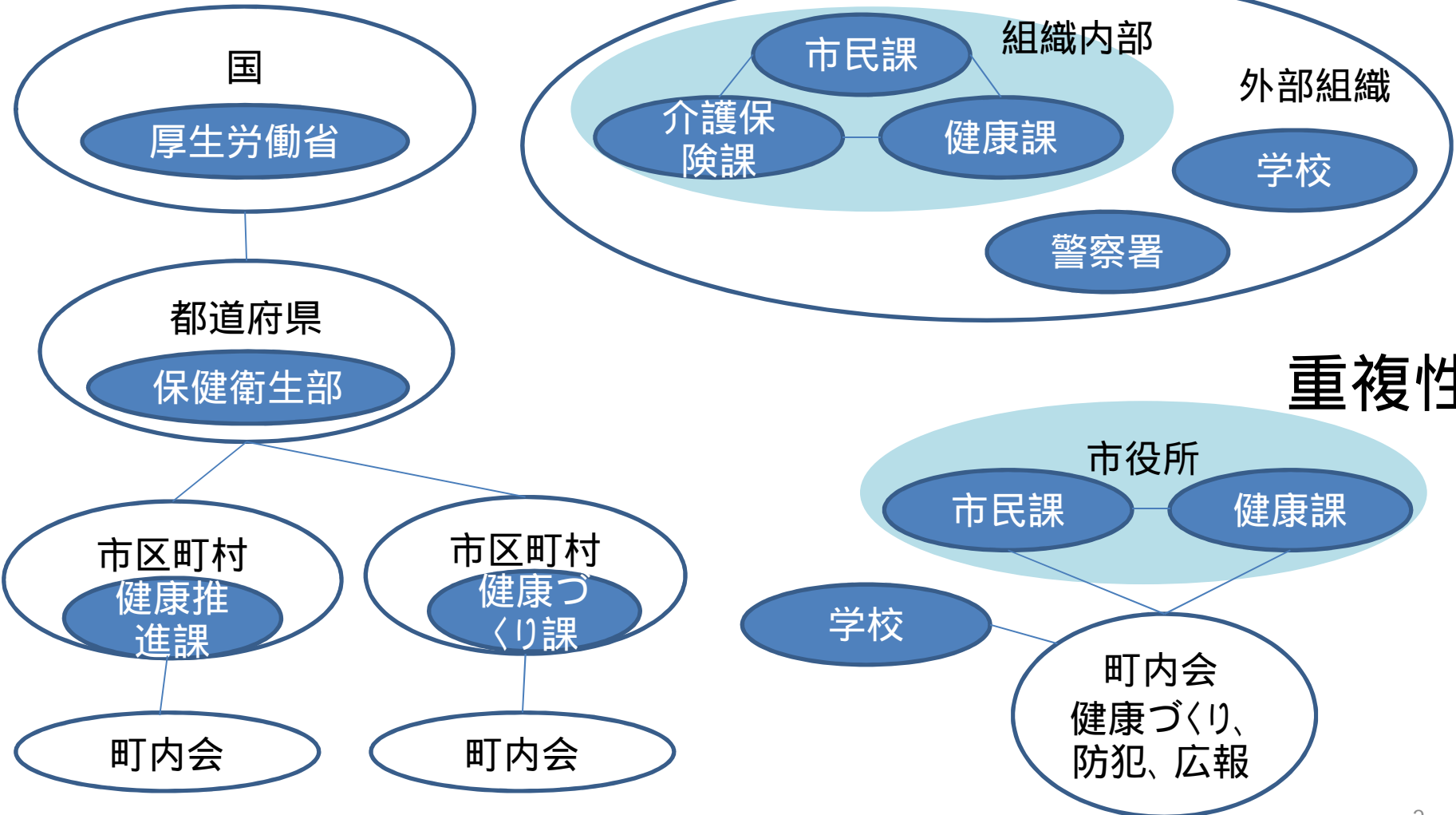
自治体における組織横断的な 連携について

東京大学大学院医学系研究科
健康科学・看護学専攻 地域看護学
永田 智子

システムとしての自治体

重層性

同位性



連携とは何か

- 同じ目標に向かって、情報共有・協働すること
- 連絡を密に取り合う、協働することに加え、他機関とつながりながらそれぞれの機能・役割を調整していくことを含む

(上林, 2004)

- 類義語: 協働、チームワーク等

チームワーク・ネットワーク・組織

- チームワーク
 - 特定の目的を共にした特定の構成員による活動
 - 実務的な遂行性が求められる
- ネットワーク
 - 出入り自由で緩やかな結合体
 - 個々人の目的が分散
 - アクセスや相互支援が問題
- 組織
 - 明確な構成員と規範の元に役割が契約された作業集団
 - 管理と改革を伴わなければ設置した目的が果たせない
- 全てに共通
 - 集団への所属感、活動の喜び

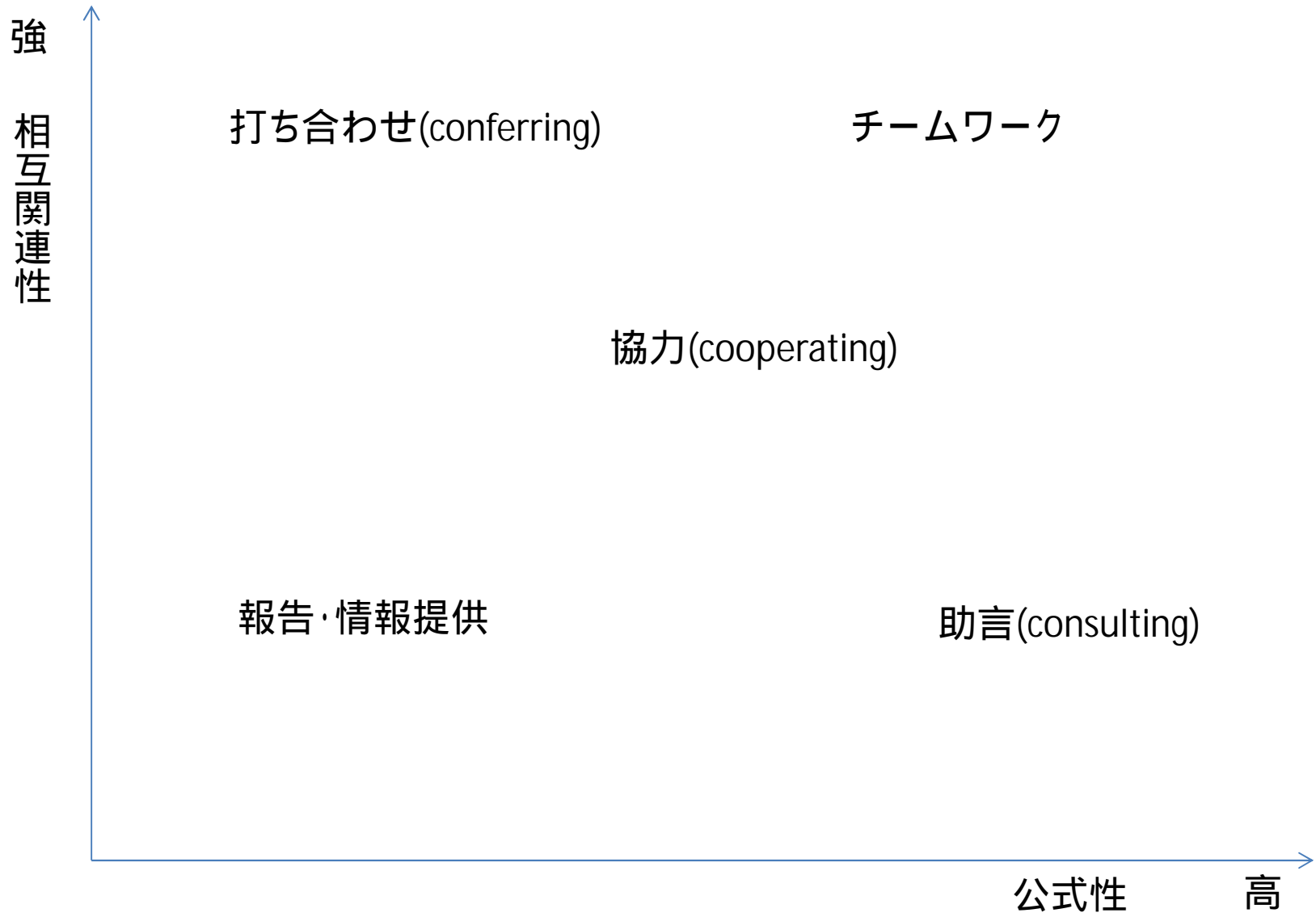
地域職際チーム

- ケアマネジメントチーム：利用者中心
- ネットワーク型チーム：非公式な知り合い
- 管理チーム：定期的に集まる公的なチーム

ネットワーク



連携の類型



連携の段階

連絡



連携




統合

- 別個の組織
- 随時の情報交換
- 「点」へのサービス
- コミュニケーション

- 異なる組織
- 定期的な業務提携
- 「線」で結ばれる
- コーディネーション

- 1つの組織
- 恒常的なつながり
- 「面」というシステム
- インテグレーション

チームの発展過程

- 
1. 知り合いになる：冷静な交流、目標は不一致
 2. 試行と失敗：ペア形成、境界の曖昧さ、疑惑
 3. 集合的な優柔不断：葛藤を避けた平衡、士気の低下
 4. 危機：露呈、リーダー出現、感情表出
 5. 解決：コミュニケーション、リーダーシップの共有
 6. チームの維持：課題の共有、相互関係成立、柔軟性

チームという神話

- 善人を集めればよいチームができる
- 高い教育を受けた者がリーダーに適する
- 異業種のスーパービジョンでも有効
- 個人力を合わせると大きな力になる
→以上は、正しい？ 誤り？

専門職間連携の利点と欠点

	利点	欠点
利用者に対して	適切な計画 迅速な実施 創造的解決 質の向上	依存性を増す可能性 個人情報
効率性	より多くの資源を最大限に活用	意見調整に時間かかる
専門職の利益	能力向上 環境改善 情緒的支援等	役割混乱や葛藤 意見の斉一性からの圧力

専門職間連携の障壁

- 周辺環境
 - 所属する組織の連結程度
 - 専門職間の権力格差
 - ジェンダー格差
- 専門職自身
 - 専門職間の価値や行動の違い
- 展開上の問題
 - 連携に関する知識・認識不足

連携がうまくいくには

関係性の調和 (Relational coordination)

良い情報交換

1. 頻度
2. タイムリーさ
3. 正確さ
4. 問題解決志向

良い関係性

1. 目標共有
2. 役割認識
3. 互いへの敬意

連携のまとめ

- 連携の目的は？
- 連携のメンバーは？
- 連携の種類は？
- 連携の段階は？
- 連携することのメリットは？
- 連携のデメリットは？
- 連携の障壁は？
- どうしたらうまくいくか？

連携の悩み
まずは整理して
みましょう

